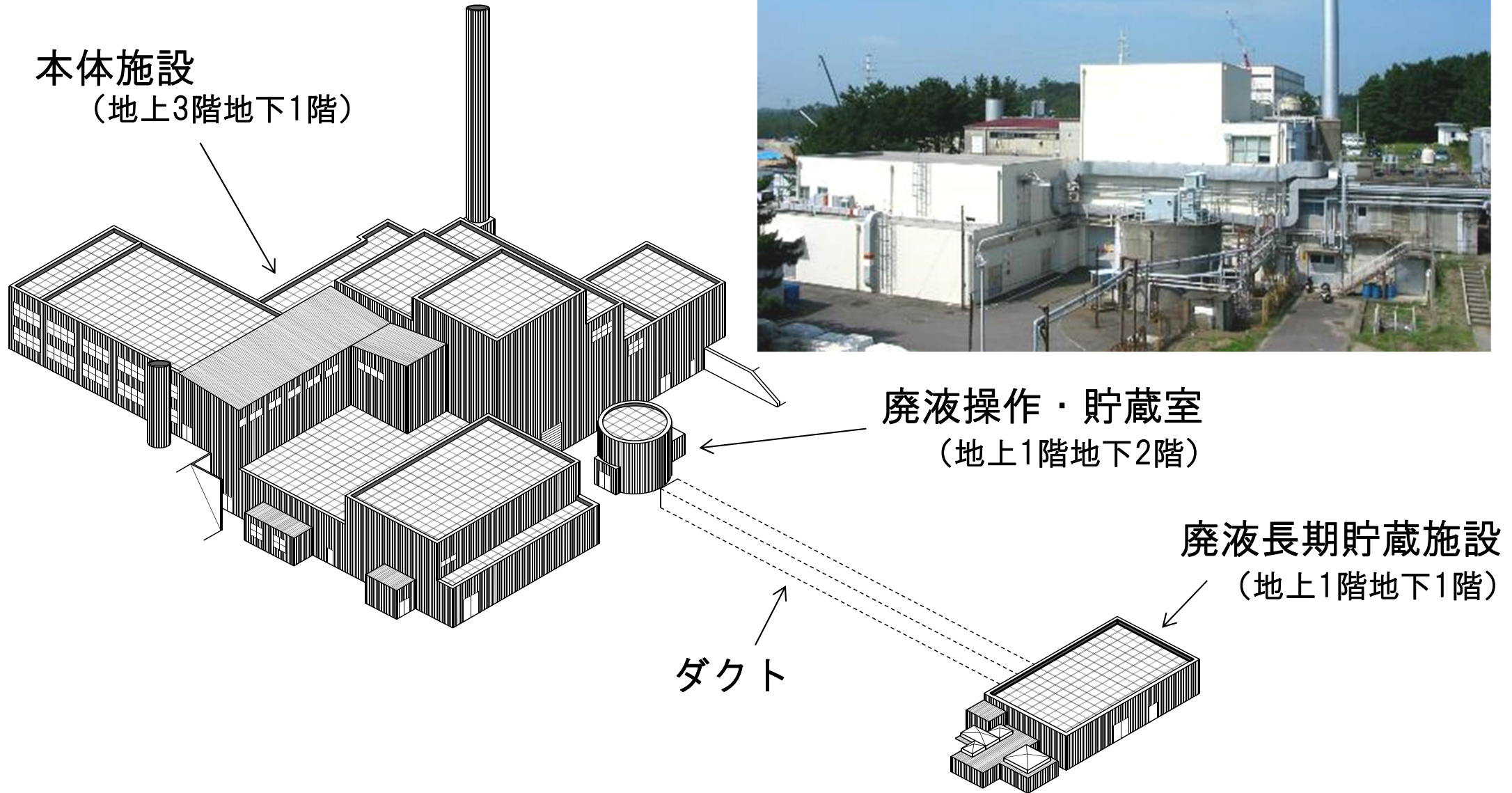
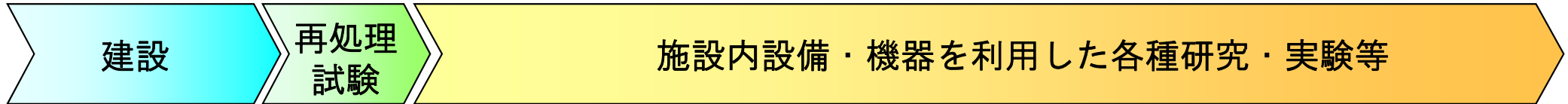


再処理特別研究棟



建設から現在までの経緯

- 我が国最初の工学規模の再処理研究施設として建設
- JRR-3使用済燃料を用いた湿式再処理試験を実施
- 約200gのプルトニウムを回収することに成功



- 昭和34年～35年 調査・設計
- 昭和36年～41年 建設
 - 昭和43年～44年 再処理試験（ホット試験）
 - 昭和44年～45年 動燃再処理工場運転員の訓練施設として利用
 - 昭和45年 シャットダウン（当初の試験終了）
 - 昭和46年～平成5年 再処理に関する技術開発、研究・実験及び軽水炉燃料の燃焼率測定
 - 昭和57年 再処理残存廃液の処理開始

施設の廃止措置

- 平成2年 再処理施設解体技術開発事業の開始
- 平成4年～ 残存廃液の処理
- 平成8～9年 ①グローブボックス群（8基）の解体
- 平成10～11年 ②ホットケーブル内部の解体
- 平成12～13年 ③分析セルの解体
- 平成13～14年 ④Puセル内部の解体
- 平成14～30年 ⑤廃液貯槽の解体
 - 平成15～16年 ⑥プリスターセルの解体
 - 令和元年 ⑦フード（1基）の解体



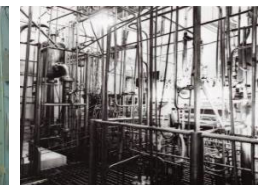
①グローブボックス群



②ホットケーブル内部



③分析セル



④Puセル内部



⑤廃液貯槽



⑥プリスターセル



⑦フード

第4期中長期期間における施設の廃止措置計画

施設	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
再処理特別研究棟 (管理区域解除(R17))		GB	1				
				建家間排水管	2		
						廃液長期貯蔵施設	3
							屋内配管・廃棄設備

1



グローブボックスS(R5.3 解体終了)



グローブボックスL



グローブボックスN(R5.6 解体終了)



グローブボックスK

2



建家間排水管(R5~R8作業予定)

3



廃液長期貯蔵施設(R7~R9作業予定)